



ゆずりがはもり

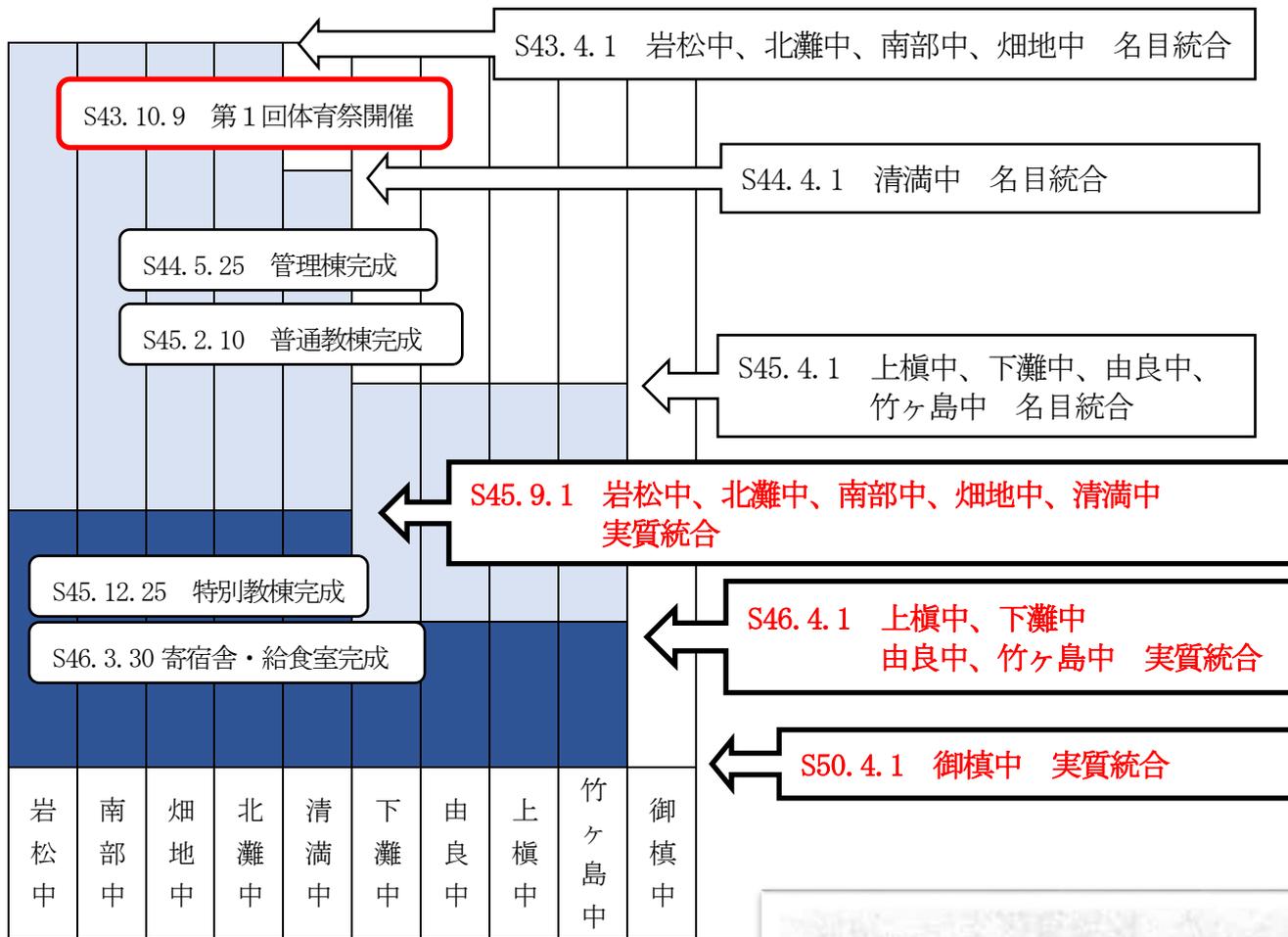
津島中のあゆみ

<校訓> 友愛・清廉・飛躍 文責 ○○ ○○

今回の号外は『津島中のあゆみ』第2弾として、津島中学校が名目統合から実質統合へと至った過程について、校長 近藤浩一が解説します。また、実質統合前に行われた、記念すべき第1回体育祭についても紹介します。

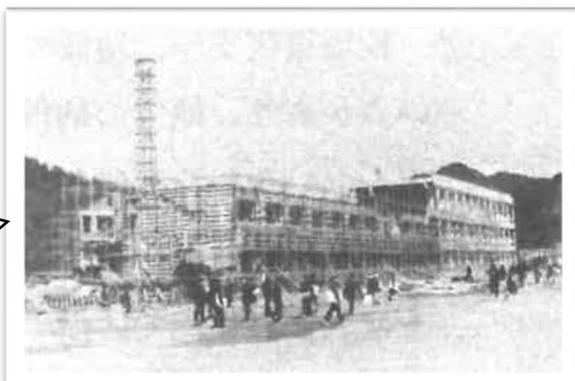
第2回「名目統合から実質統合へ」

本校は、昭和43年4月1日、津島町立岩松中学校、北灘中学校、南部中学校、畑地中学校の4校の名目統合により誕生しました。しかし、名前は誕生しましたが、校舎は4つに分かれ、敷地造成工事も始まったばかりでした。そこから約5年の歳月をかけて、校舎や施設・設備を整備し、7年後の昭和50年4月1日に、ようやく念願の全町1校（旧津島町に1つの中学校）という目標が達成されました。普通であれば、校舎ができてから統合する流れになるはずですが、10校2分校という多数の学校を統合するということと、当時の津島町の財政状況でこれほど大規模な中学校を建設するのは負担が大きすぎるということで、これだけの歳月がかかったようです。



校舎建築開始

普通教棟西半分の3階コンクリート打込準備





私(近藤)が4,5歳の頃、家の裏山で撮った写真です。岩松川の対岸の平地に建設中の旧校舎が写っています。



校舎は完成し、給食室と白鷺寮が完成間近です。左の写真の奥の山の上から撮った写真だと思われます。

第1回体育祭

本校は、創立55年目の今年、第55回体育祭を迎えます。普通のことと思われるかもしれませんが、私は「実質は55回目ではないだろう」と思っていました。



昨年度の体育祭の入場行進

それは、創立当時は、統合とは名ばかりで、校舎もグラウンドもなかったことを知っていたからです。ところが、調べてみると、4校の名目統合をした昭和43年の10月9日に、田んぼを埋め立てて、敷地造成工事が終わったばかりのこの地で第1回体育祭が挙行されていました。なぜ、一見無謀と思われる荒地での体育祭を挙行するに至ったのか、どんな苦労があったのか、十周年記念誌「礎」に綴られた初代・山本英作校長先生の「回顧10年」から読み解きたいと思います。

願わくば、校舎の建築に平行していや先行して、教師生徒父兄の意欲を結集したいと思った。それは一つ一つ具体的な行動と完成から生じると思った。まず、手始めに第1回体育祭をこの荒地の新校地でやるべきだと思った。全員が力を結集して当たるには最もふさわしい皆無の条件である。これこそ知恵も出そうし肉体力も出し得る場であった。

まず、期日の問題、PTA役員に投げかけた。それから必要条件が次から次と申し出られる、全てもったもな条件ばかりである。便所は、水飲は、練習は、整地は、等々、進めば道は開かれてきた。便所、水道は教育委員会で直ちに仮設していただいた。整地は一番便利な岩松校舎の生徒が担当した。労力の関係上、走路のみ整地し後は草原の中で実施した。練習なしのぶっつけ本番である。各人の努力と全員の心のつながりが大切であった。

前日夕刻、PTA会長や2,3の人が鯉幟の棹を持ってきて立てられた。当日はこれに国旗が掲揚された。全てに思いやりが行き渡り、意欲に満ちた第1回の体育の祭りが敷地開きを祝うかの如く実施された。

ただの「原っぱ」だった校舎建設予定地での第1回体育祭。当時の先生方、生徒の皆さんの御苦労は大変なものだったと思います。しかし、山本英作校長先生のねらい通り、先生方、生徒、保護者の方々の心のつながりは強固なものになったのではないのでしょうか。今年、55回目の体育祭を迎えます。生徒の数は少なくなりましたが、みんなの心のつながりが感じられる体育祭になればと願っております。

御意見、御感想や、津島中学校についての過去の情報などを知っている方がいらっしゃいましたら、下記のアドレスまで御連絡ください。
(「ゆずりがはもり」担当 ○○ ○○)